

## 平成 27 年度 通常総会資料

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

公益社団法人 日本磁気学会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11

東京 YWCA 会館 207 号室

電話 (03)5281-0106, メール [msj@bj.wakwak.com](mailto:msj@bj.wakwak.com)

## 通常総会議事予定

### <配布資料>

1. 議事予定
2. 通常総会資料

### <通常総会議事>

- 第1号議案 定款の改訂について
- 第2号議案 平成27年度（自平成27年4月1日至平成28年3月31日）  
事業報告に関する件
- 第3号議案 平成27年度（自平成27年4月1日至平成28年3月31日）  
収支決算報告に関する件
- 第4号議案 平成28年度事業計画に関する件
- 第5号議案 平成28年度収支予算に関する件
- 第6号議案 名誉会員の推薦に関する件
- その他 報告事項

以上

# 第1号議案 定款の改訂について

新 (下線部分が変更点) 旧

新	旧
<p>(議 長)  <b>第37条</b> 理事会の議長は、会長がこれに当たる。            2 <u>会長に事故ある場合には、理事会規定により代行者を定める。</u></p>	<p>(議 長)  <b>第37条</b> 理事会の議長は、会長がこれに当たる。</p>
<p>(事業計画及び収支予算)  <b>第47条</b> この法人の事業計画書及び収支予算書等は、毎事業年度の開始の日の前日までに会長が作成し、理事会の決議を経て、<u>定時総会</u>に報告するものとする。これを変更する場合も、同様とする。            2 前項の事業計画書及び収支予算書等（事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類）については、毎事業年度の開始の日の前日までに行政庁に提出しなければならない。</p>	<p>(事業計画及び収支予算)  <b>第47条</b> この法人の事業計画書及び収支予算書等は、毎事業年度の開始の日の前日までに会長が作成し、理事会の決議を経て、<u>直近の総会</u>に報告するものとする。これを変更する場合も、同様とする。            2 前項の事業計画書及び収支予算書等（事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類）については、毎事業年度の開始の日の前日までに行政庁に提出しなければならない。</p>
<p>(事業報告及び決算)  <b>第48条</b> この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が事業報告書及び計算書類並びにこれらの付属明細書、財産目録を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を経た上で、<u>定時総会において報告するものとする。</u>            2 前項の財産目録等については、毎事業年度の経過後3ヶ月以内に行政庁に提出しなければならない。            3 この法人は、第1項の定時総会の終結後直ちに、法令の定めるところにより、事業報告書および収支計算書などを、主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。</p>	<p>(事業報告及び決算)  <b>第48条</b> この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が事業報告書及び計算書類並びにこれらの付属明細書、財産目録を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を経た上で、<u>定時総会において承認を得るものとする。</u>            2 前項の財産目録等については、毎事業年度の経過後3ヶ月以内に行政庁に提出しなければならない。            3 この法人は、第1項の定時総会の終結後直ちに、法令の定めるところにより、事業報告書および収支計算書などを、主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。</p>

## 第2号議案 平成27年(2015年)度事業報告に関する件

(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)

近年、継続する財政不健全な状況を打破すべく、J.Magn.Soc.Jpnの紙媒体発行中止や事務所移転など、会長を中心とした学会改革を強力に推進した。本年度の学術講演会では、概要集のWeb配信、非会員の学術講演会事前参加登録およびシンポジウム公募化などを推進し収益改善に寄与する事が出来た。また、賛助会員訪問で賛助会員企業の業務や社風などを会報まぐねに紹介する事により、賛助会員をより身近に感ずるようになった。第4回岩崎コンファレンスを「医工学とビッグデータが拓く医療の未来」とのテーマでプログラムを構成し、平成28年5月16,17日に開催予定で準備を進めた。

### I 事業の状況

#### 1. 1 学術講演会及びシンポジウム

本年度は、研究成果の発表・討論の場として第39回学術講演会を主催した。

#### 第39回学術講演会

期日：平成27年9月8日(火)～11日(金)

会場：名古屋大学(愛知県)

大会実行委員長：岩田 聡(名古屋大学)

講演件数：325件

セッション数：59

参加者：577名

- 1) “Advances and perspectives in instrumentation and experimental methodology for research in magnetism “  
参加者：35名
- 2) “Energy Magnetism improving motor efficiency”  
参加者：60名
- 3) “Magnetic field sensors opening the age of big data “  
参加者：40名
- 4) “Tutorial symposium on theoretical calculation and computer physics in magnetism and magnetism”  
参加者：65名

#### 1. 2 研究会

第202回から207回までの6回の研究会を下記の通り開催した。第203回研究会においてスピン機能を利用した大型プロジェクトに関するシンポジウムを行い、磁気工学分野において実施されている大型研究の情報交流を図った。

1) 第202回研究会 「エネルギーに関連する磁性材料の現状とその展開」

期日：平成27年5月26日(火)

会場：中央大学駿河台記念館（東京都）

参加者：28名

2) 第203回研究会

「大型プロジェクトによる磁気・スピン新機能デバイス研究開発の最前線」

期日：平成27年7月24日（金）、25日（土）

会場：日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館（東京都）

参加者：24日74名，25日32名（28名は両日参加）

3) 第204回研究会/第27回光機能磁性デバイス・材料専門研究会

「磁気イメージングチュートリアル

～研究を加速させる可視化技術の初歩から最先端まで～」

期日：平成27年11月25日（水）

会場：中央大学駿河台記念館（東京都）

参加者：28名

4) 第205回研究会/第56回スピンエレクトロニクス専門研究会

「将来の磁気デバイスを担う新しいナノ磁気構造とスピン操作の可能性

～カイラル磁性とスピンオービトロニクスが拓く新現象～」

期日：平成27年12月14日（金）

会場：中央大学駿河台記念館（東京都）

参加者：41名

5) 第206回研究会

「発電用電子・磁気材料の現状と今後の展望」

期日：平成28年1月29日（金）

会場：中央大学駿河台記念館（東京都）

参加者：34名

6) 第207回研究会/第35回強磁場応用専門研究会

「溶液系の磁場効果とその利用－磁気マイクロフルイド，磁気分離」

期日：平成28年3月18日（金）

会場：早稲田大学研究開発センター（東京都）

参加者：13名

1. 3 講習会、公開講座

初等磁気工学講座、サマースクール、公開講演会を開催した。

1) 第20回初等磁気工学講座

期日：平成27年7月21日（火）

会場：中央大学駿河台記念館（東京都）

参加者：32名

2) 第38回サマースクール

期日：平成 27 年 7 月 22 日（水）～ 24 日（金）

会場：中央大学駿河台記念館（東京都）

参加者：58 名

### 3) 公開講演会

- ・第 2 1 回公開講演会「磁石の不思議な世界－聞いて、さわって、体験しよう－」

期日：平成 27 年 9 月 12 日（土）

会場：名古屋大学東山キャンパス

参加者：児童 35 名

- ・第 2 2 回公開講演会「磁石の不思議な世界－聞いて、さわって、体験しよう－」

期日：平成 28 年 3 月 27 日(日)

会場：埼玉大学

参加者：児童 40 名

## 1. 4 専門研究会

本年度はナノマグネティックス専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、スピンエレクトロニクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、磁気工学専門研究会、強磁場応用専門研究会、エネルギーマグネティックス専門研究会、新規の超高感度マイクロ磁気センサ専門研究会を下記の通り開催した。専門研究会間の交流・活性化を目的として、今年度も専門研究会幹事会を開催した。

化合物新磁性専門研究会では、2 会場をテレビ会議でつなぎ、多くの参加者を得た。

### 1) ナノマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 63 回	開催延期		
第 64 回	平成 27 年 6 月 26 日	中央大学駿河台記念館	14 名
第 65 回	平成 27 年 9 月 11 日	名古屋大学（学術講演会 A 会場）	65 名
第 66 回	平成 27 年 10 月 22、23 日	大阪大学	34 名
第 67 回	平成 27 年 11 月 12 日	中央大学駿河台記念館	37 名
第 68 回	平成 27 年 11 月 12 日	中央大学駿河台記念館	15 名
第 69 回	平成 27 年 12 月 8 日	日本大学理工学部駿河台キャンパス	12 名

### 2) 磁気工学専門研究会(旧ナノバイオ磁気工学専門研究会)

回数	期日	会場	参加者
第 55 回	平成 27 年 7 月 16 日	電気通信大学	9 名
第 56 回	平成 27 年 9 月 8 日	名古屋大学（学術講演会 A 会場）	35 名
第 57 回	平成 27 年 11 月 27 日	電気通信大学	16 名

第 58 回	平成 28 年 3 月 4 日	東京工業大学	8 名
第 59 回	平成 28 年 3 月 18 日	早稲田大学研究開発センター	13 名

3) スピンエレクトロニクス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 54 回	平成 27 年 6 月 10 日	中央大学駿河台記念館	26 名
第 55 回	平成 27 年 11 月 12 日	中央大学駿河台記念館	37 名
第 56 回	平成 27 年 12 月 14 日	中央大学駿河台記念館	41 名
第 57 回	平成 28 年 1 月 6 日	東北大学	31 名
第 58 回	平成 28 年 3 月 29 日	中央大学駿河台記念館	36 名

4) 化合物新磁性材料専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 53 回	平成 27 年 7 月 4 日	東京大学本郷キャンパス CROSS 東海	43 名
第 54 回	平成 27 年 11 月 20 日	東京大学本郷キャンパス 産業総合技術研究所	33 名
第 55 回	平成 28 年 3 月 11 日	東京大学浅野キャンパス 横浜国立大学	28 名

5) 強磁場応用専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 34 回	平成 28 年 3 月 10 日	早稲田大学研究開発センター	15 名
第 35 回	平成 28 年 3 月 18 日	早稲田大学研究開発センター	12 名
第 36 回	平成 28 年 3 月 25 日	大阪大学	10 名
第 37 回	平成 28 年 3 月 30 日	大阪大学	12 名

6) 光機能磁性デバイス・材料専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 24 回	平成 27 年 6 月 9 日	東北工業大学	22 名
第 25 回	平成 27 年 7 月 30 日	九州工業大学	25 名
第 26 回	平成 27 年 11 月 13 日	日本大学	27 名
第 27 回	平成 27 年 11 月 25 日	中央大学駿河台記念館	28 名

7) エネルギーマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 4 回	平成 27 年 9 月 9 日	名古屋大学 (学術講演会 A 会場)	80 名

第5回	平成27年12月15日	沖縄船員会館	100名
-----	-------------	--------	------

8) 超高感度マイクロ磁気センサ専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第1回	平成27年6月26日	中央大学駿河台記念館	50名
第2回	平成27年9月10日	名古屋大学（学術講演会A会場）	40名
第3回	平成28年3月29日	中央大学駿河台記念館	36名

1. 5 国際会議の主催、共催

International Symposium on Optical Memory 2015 (ISOM' 14)

富山国際会議場（富山県富山市） 平成27年10月4日～7日

2. 学会誌の刊行

Journal of the Magnetism Society of Japan (JMSJ) を39巻3号より40巻2号まで計6回、また会報誌「まぐね」を10巻2号より11巻1号の計6回発行した。JMSJ は論文に特化し、英文論文を掲載した。「まぐね」は論説、解説、特集記事、連載講座など寄稿記事を中心に編集した。

2. 1 Journal of the Magnetism Society of Japan

巻—号	発行年月日	内容（詳細は各号の目次参照）
39-3	平成27年5月1日	論文8件、総ページ数 45
39-4	平成27年7月1日	論文6件、総ページ数 35
39-5	平成27年9月1日	論文9件、総ページ数 53
39-6	平成27年11月1日	論文2件、総ページ数 11
40-1*	平成28年1月1日	論文3件、総ページ数 18
40-2*	平成28年3月1日	論文5件、総ページ数 26

\*印刷冊子ではなく、CDとして配布。

2. 2 会報誌「まぐね」

巻—号	発行年月日	内容(詳細は各号の目次参照)
10-2	平成27年4月1日	論説「MRAM 開発と産学官連携」(安藤功兒) 特集「平成26年度日本磁気学会受賞者論文」 解説5件 総ページ数 52
10-3	平成27年6月1日	論説「これからの産学連携を考える」(田中厚志) 特集「生体に関する磁性研究の最前線」 解説1件、トピックス3件 初等連載講座 1件

		磁気研究よもやま話 1 件、総ページ数 54
10-4	平成 27 年 8 月 1 日	会長挨拶 (福永博俊) 論説「温故知新」(喜多英治) 特集「ねじれたナノ磁気構造とその制御」 解説 1 件、トピックス 3 件 総ページ数 46
10-5	平成 27 年 10 月 1 日	論説「磁気記録 50 年のキャリアと今後に思う」(堀内義章) 特集「磁気をめぐる国際規格」 解説 1 件、トピックス 4 件 初等連載講座 1 件 総ページ数 58
10-6	平成 27 年 12 月 1 日	論説「レ・ミゼラブル」(齊藤兆古) 特集「超省エネ素子実現の鍵となるスピン波の基礎と応用」 解説 2 件、トピックス 2 件 総ページ数 70
11-1	平成 28 年 2 月 1 日	論説「金属人工格子からスピントロニクス、そしてスピン流へ」(高梨弘毅) 特集「レアメタルリサイクルの意義とリサイクル技術開発の動向について」 解説 2 件、トピックス 2 件 初等連載講座 1 件 磁気研究よもやま話 1 件 総ページ数 64

### 3. 研究および調査の実施 (定款 4 条 3 号)

#### 3. 1 電子化の推進

会員サービスの拡大のための技術情報サービスやメールマガジンの充実、Facebook による情報発信サービスを行った。

#### 3. 2 会員獲得のための広報活動強化

各種会合、講演会、展示会などにおける学会広報活動を強化し、ポスターやリニューアルした入会案内パンフレットなどによる会員入会勧誘を積極的に推進した。

#### 3. 3 ホームページの充実

技術情報サービス記事の一部にバナー広告からのリンクを貼った。また、磁気学会ホームページの改良に向け、利用状況の解析を実施した。

#### 4. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款4条4号）

平成27年度学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、出版賞、学術奨励賞、学生講演賞、新技術・新製品賞および学会活動貢献賞の表彰を下記の通り行った。

（学会賞、業績賞、優秀研究賞：二本正昭委員長、論文賞、学術奨励賞、出版賞：鈴木良夫委員長、学生講演賞、技術功労賞、新技術・新製品賞：本蔵義信委員長、学会活動貢献賞：宮本泰敬委員長）

学会賞：二本 正昭 氏（中央大学）

「磁気記録用磁性材料の基本物性解析とそれに基づく応用に関する研究」

毛利 佳年雄 氏（名古屋大学）

「高感度マイクロ磁気センサ(MIセンサ)の発明と情報磁気センサ工学の発展」

業績賞：湯浅 新治 氏（産業技術総合研究所）

「磁性体ナノ構造の創成と磁気機能性材料・デバイスへの展開」

優秀研究賞：

斉藤 伸 氏（東北大学）

「ナノ磁性薄膜の基本物性解析に基づく磁気記録用磁性膜の高性能化に関する研究」

桜庭 裕弥 氏（物質・材料研究機構）

「高スピン偏極ハーフメタルホイスラー合金に関する先駆的研究」

水口 将輝 氏（東北大学）

「磁性ナノ超構造の創成とスピンドバイス応用の研究」

論文賞：

1. Dependence of Magnetic Damping on Temperature and Crystal Orientation in Epitaxial Fe<sub>4</sub>N Thin Films  
S. Isogami, M. Tsunoda, M. Oogane, A. Sakuma, and M. Takahashi,  
J. Magn. Soc. Jpn., **38**, pp.162-168 (2014)
2. CMOS Switch Buck DC-DC Converter Fabricated in Organic Interposer with Embedded Zn-Fe Ferrite Core Inductor  
K. Hagita, Y. Yazaki, Y. Kondo, M. Sonehara, T. Sato, T. Fujii, N. Matsushita,  
Y. Yanagihara, T. Someya, M. Takamiya, and T. Sakurai,  
J. Magn. Soc. Jpn., **39**, pp.71-79 (2015)

出版賞：

1. 「スピン流とトポロジカル絶縁体 —量子物性とスピントロニクスの発展—」  
（共立出版株式会社） 著者：齊藤 英治 氏、村上 修一 氏
2. 「磁気イメージングハンドブック」（共立出版株式会社）  
編者：大嶋 則和 氏、小野 寛太 氏、笹田 一郎 氏、三俣 千春 氏、山田 豊和 氏

学術奨励賞（内山賞）：

原 彬大 氏（東北大学）、兵頭 一茂 氏（東北大学）、  
楠 洸介 氏（仙台高等専門学校）、飯浜 賢志 氏（東北大学）、  
磯上 慎二 氏（福島高等専門学校）

学生講演賞（桜井講演賞）：

磯谷 亮介 氏 (豊橋技術科学大学)、兵頭 一茂 氏 (東北大学)、  
岡 美嶺人 氏 (筑波大学)、秋本 一輝 氏 (東北大学)、遠藤 基 氏 (東北大学)、  
坂本 圭弥 氏 (東北大学)、大田 浩司 氏 (筑波大学)、岡野 元基 氏 (慶応大学)、  
佐藤 哲也 氏 (日本大学)

新技術・新製品賞：

「VSM-5HSC 型 高温超電動電磁石式振動試料型磁力計の開発」(東英工業株式会社)  
学会活動貢献賞：能崎 幸雄 氏 (慶応大学)、早川 純 氏 (日立製作所)

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力 (定款4条5号)

下記の会合を協賛した (開催日順)。

- 1) 春季研究会 (一社) 日本時計学会  
中央大学理工学部 2015年4月23日(木)
- 2) ナノ学会第13回大会 ナノ学会  
東北大学・片平さくらホール 2015年5月11日(月)~13日(水)
- 3) 第43回薄膜・表面物理セミナー (公社) 応用物理学会  
早稲田大学西早稲田キャンパス 2015年6月8日(月)
- 4) 第34次モータ技術フォーラム (一社) 日本能率協会  
日本能率協会 2015年9月~2016年3月
- 5) 2015年度マイクロメカトロニクス学術講演会 (一社) 日本時計学会  
中央大学理工学部 2015年9月11日(金)
- 6) 国際トライボロジー会議東京2015 (一社) 日本トライボロジー学会  
東京理科大学葛飾キャンパス 2015年9月16日(水)~20日(日)
- 7) 第39回結晶成長討論会 日本結晶成長学会  
同志社びわこリトリートセンター 2015年9月24日(木)~26日(土)
- 8) 本多記念講演会 - 金研100周年を前にして - (公財) 本多記念会  
ホテルメトロポリタン仙台 2015年10月2日(金)
- 9) 第45回結晶成長国内会議 (NCCG-45) 日本結晶成長学会  
北海道大学 2015年10月19日(月)~21日(木)
- 10) 第10回日本磁気科学会年会 日本磁気科学会  
信州大学理学部 2015年10月27日(火)
- 11) International Conference on Magneto-Science 2015 (ICMS 2015)

International Organizing Committee of ICMS

Hotel Buena Vista Matsumoto

2015年10月27日(火)~31日(土)

- 1 2) 第25回 RCJ 信頼性シンポジウム (一財) 日本電子部品信頼センター  
大田区産業プラザ 2015年11月5日(木)~6日(金)
- 1 3) 日本希土類学会第33回講演会 日本希土類学会  
東工大蔵前会館 2015年11月6日(金)
- 1 4) 第24回 MAGDA コンファレンス in Tohoku 日本 AEM 学会  
東北大学電気通信研究所・流体科学研究所 2015年11月12日(木)~14日(土)
- 1 5) 第58回自動車制御連合講演会 第58回自動車制御連合講演会実行委員会  
神戸大学六甲台キャンパス 2015年11月14日(土)~15日(日)
- 1 6) 第28回国際超電導シンポジウム(ISS2015) (公財) 国際超電導産業技術研究センター  
タワーホール船堀 2015年11月16日(月)~18日(水)
- 1 7) 2015年日本時計学会秋季研究会 (一社) 日本時計学会  
中央大学後樂園キャンパス 2015年11月20日(金)
- 1 8) 平成27年度高専女子フォーラム in 東北 (独) 国立高等専門学校機構  
TKP ガーデンシティ仙台 2015年12月19日(土)
- 1 9) 第24回ポリマー材料フォーラム (公社) 高分子学会  
タワーホール船堀 2015年11月26日(木)~27日(金)
- 2 0) 2015年真空・表面科学合同講演会 日本真空協会・日本表面科学会  
つくば国際会議場 2015年12月1日(火)~3日(木)
- 2 1) 平成27年度高専女子フォーラム in 関西 (独) 国立高等専門学校機構  
大阪府立大学 I-site なんば 2015年12月23日(水)
- 2 2) 元素戦略/希少金属代替材料開発第10回シンポジウム NEDO、科学技術振興機構  
東京国際フォーラム 2016年2月23日(火)
- 2 3) 第1回 SPring-8 先端利用技術ワークショップ 高輝度光科学技術センター  
グランパークプラザ 2016年3月11日(金)

- |   |   |
|---|---|
| 24) シンポジウムモバイル' 16<br>産業技術総合研究所つくばセンター    | 特定非営利活動法人モバイル学会<br>2016年3月10日(木)~11日(金) |
| 25) 2015年度量子ビームサイエンスフェスタ<br>つくば国際会議場      | 高エネルギー加速器研究機構他<br>2016年3月15日(火)~16日(水)  |
| 26) 平成27年度高専女子フォーラム in 九州沖縄<br>西日本総合展示場新館 | (独) 国立高等専門学校機構<br>2016年3月21日(月)         |

## II 処務の概要

### 1 会議

平成27年4月1日から平成28年3月31日の間に下記の会議を開催した。

#### 1) 総会

本年度は平成27年5月22日に通常総会を行い下記議案が審議され、定款の改訂を除いて原案通り可決された。定款の改訂は必要な定足数に達せず審議未了となった。  
通常総会議案：定款の改訂、平成26年度事業報告、平成26年度収支決算報告、平成27年度事業計画、平成27年度収支予算、名誉会員の推薦、平成27・28年度役員の推薦などの議案が上程された。報告事項として日本磁気学会の改革について報告された。

#### 2) 顧問会

下記期日に開催した。  
平成27年9月10日に開催した。

#### 3) 理事会

下記期日に開催した。  
平成27年5月22日、平成27年7月27日、平成27年9月8日、  
平成27年11月9日、平成28年1月25日、平成28年3月11日

#### 4) 諸委員会

総務委員会 4回、 財務委員会 4回、 企画委員会 8回  
編集委員会 6回、 広報委員会 2回、 AUMS Council meeting 2回  
学会賞、業績賞、優秀研究賞選考委員会 2回  
論文賞、学術奨励賞（内山賞）選考委員会 2回、  
学生講演賞、新技術・新製品賞、学会活動貢献賞選考委員会 3回（メール審議）  
出版賞選考委員会 2回

#### 5) その他

- ・名誉会員懇談会を平成27年9月9日に、また賛助会員懇談会を平成27年9月9日に開催した。
- ・賛助会員として学会を支えている企業のうち数社を訪問し、各企業の社風や業態などに関するインタビューを実施し、その内容を学会報まぐねに「賛助会員訪問記」として掲載した。賛助会員の貢献に対する本学会の謝意を表す活動として継続実施する。

・事務局事務所を、平成 28 年 2 月 20 日に千代田区神田駿河台 1-8-11 東京 YWCA 会館 207 号室に移転した。

## 2 契約に関する事項

### 契約案件一覧

契約年月日	相手方	契約の内容	期間
平成 28 年 3 月 26 日	韓国磁気学会	相互協力に関する合意	5 年
平成 24 年 4 月 1 日	学協会著作権協議会	複写に関わる権利委託	5 年
平成 24 年 12 月 2 日	台湾磁気技術協会	相互協力に関する合意	5 年
平成 27 年 4 月 1 日	学術情報学研究所	電子図書館サービス	1 年
平成 27 年 4 月 1 日	高垣公認会計士 税理士事務所	決算の監査	1 年
平成 27 年 6 月 25 日	Ms.Joy Waller	日本磁気学会誌英文、リライト	1 年
平成 27 年 6 月 1 日	(株)科学技術社	学会誌の広告に関する代理業務	1 年
平成 27 年 12 月 1 日	(株)国際文献印刷社	日本磁気学会誌印刷	1 年
平成 28 年 3 月 12 日	東京書庫(株)	文書の保管および運搬	1 年
平成 27 年 11 月 30 日	三菱地所リアルエステートサービス	東京 YWCA 会館 事務所の賃貸権	2 年
平成 28 年 1 月 1 日	IEEE	National Society Agreement	3 年
平成 28 年 1 月 1 日	IEEE Magnetic Society	Sister Society Agreement	3 年

### 会員の異動状況

会員種別	員 数		
	本年度末現在 (平成 28 年 3 月 31 日現在)	前年度末現在 (平成 27 年 3 月 31 日現在)	増減
正会員	1, 549	1, 547	+2
賛助会員	73	73	±0
学生会員	427	439	-12
名誉会員	40	41	-1

**第 3 号議案 平成 27 年(2015 年)度収支決算報告に関する件**

(自平成 27 年 4 月 1 日至平成 28 年 3 月 31 日)

## 貸借対照表

2016年 3月31日現在

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金	28,115	37,734	△ 9,619
普通預金	21,882,707	22,911,349	△ 1,028,642
未収金	929,170	1,364,760	△ 435,590
前払金	708,174	310,500	397,674
流動資産合計	23,548,166	24,624,343	△ 1,076,177
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特定資産			
特定預金	46,171,655	45,458,921	712,734
学術奨励特定預金（内山賞・学生講演賞）	2,000,000	2,000,000	0
国際会議準備特定預金	17,009,023	16,259,023	750,000
事務所充実特定預金	510,790	877,990	△ 367,200
出版広報特定預金	5,574,448	5,574,448	0
萌芽的研究推進特定預金	20,100,000	20,100,000	0
退職給付引当預金	977,394	647,460	329,934
特定資産合計	46,171,655	45,458,921	712,734
(3) その他固定資産			
什器備品	1	30,450	△ 30,449
電話加入権	134,625	134,625	0
敷 金	1,072,500	3,946,920	△ 2,874,420
その他固定資産合計	1,207,126	4,111,995	△ 2,904,869
固定資産合計	57,378,781	59,570,916	△ 2,192,135
資産合計	80,926,947	84,195,259	△ 3,268,312
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
前受金	616,000	640,000	△ 24,000
前受会費	7,293,500	8,446,500	△ 1,153,000
預り金	272,994	276,612	△ 3,618
源泉所得税（給）	193,090	171,210	21,880
住民税	40,000	40,000	0
社会保険料	39,904	65,402	△ 25,498
仮受金	14,000	6,000	8,000
賞与引当金	358,350	367,880	△ 9,530
未払金	246,384	271,181	△ 24,797
未払消費税	299,632	237,582	62,050
流動負債合計	9,100,860	10,245,755	△ 1,144,895
2. 固定負債			
退職給付引当金	977,394	647,500	329,894
固定負債合計	977,394	647,500	329,894
負債合計	10,078,254	10,893,255	△ 815,001
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	20,573,287	19,823,287	750,000
（うち基本財産への充当額）	(10,000,000)	(10,000,000)	( 0)
（うち特定資産への充当額）	( 10,573,287)	( 9,823,287)	(750,000)
2. 一般正味財産	50,275,406	53,478,717	△ 3,203,311
（うち特定資産への充当額）	(34,620,974)	(34,988,174)	(△367,200)
正味財産合計	70,848,693	73,302,004	△ 2,453,311
負債及び正味財産合計	80,926,947	84,195,259	△ 3,268,312

## 第4号議案 平成28年度事業計画に関する件

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

平成28年度は財政的に厳しい状況が継続すると認識しており引き続き会員の拡大や各種イベントへの参加増など収入増に注力しつつ、会員へのサービス向上に努めてゆく。

特に、本年度は本会創設40周年にあたり、記念事業や改革に向け下記の4点の活動を重点的に進める。

学会活動のポイント

- 1) 40周年記念事業として、学術講演会概要集、研究会資料およびまぐねなどの電子化およびCD製作、販売を行う。
- 2) 理事会主導性を強化し、委員会相互の連携を通して学会横断的な改革を推進する。
- 3) メールマガジン、ホームページ、フェイスブックなどの電子媒体や学会誌および学術講演会などの発表の場の活用による情報発信の充実。特に、専門研究会の機動性ある活動を会員の皆様に周知を図って行く。
- 4) 学術講演会の公募シンポジウムを充実させ、より幅広い視点から議論できる場の発展。

### I 事業の状況

#### 1. 研究発表会、講演会等の開催（定款4条1号）

##### 1. 1 学術講演会

磁気に関する基礎から応用までの全般にわたる研究成果の発表・討論の場として学術講演会を年度内に1回開催する。

本年度は平成28年9月5日（月）から8日（木）まで金沢大学（石川県金沢市）において第40回日本磁気学会学術講演会を開催する。本年度の学術講演会は、これまでと同様に国内外の新しい磁気に関する研究成果をもれなく集め、約80セッションを設け約500篇の講演論文を集めて行う予定。

##### 1. 1. 1 学術講演会におけるシンポジウムの公募

第40回日本磁気学会学術講演会に開催予定のシンポジウムを引き続き公募制とする。これにより学会員の議論のさらなる活性化を図る。

##### 1. 1. 2 学術講演会における非会員の講演登壇

第40回日本磁気学会学術講演会より非会員も講演登壇を可能とする。非会員であっても登壇料の支払いによって講演を認めることにより投稿数が増加することが期待できる。

##### 1. 1. 3 学術講演会の概要集のウェブ配信化

第40回日本磁気学会学術講演会の概要集をウェブ配信化する。並行して、従来の概要集冊子の形でも別料金にて事前受付をし、従来のサービスも一部継続する。これらにより学会員の利便性向上を図る。

#### 1. 1. 4 学術講演会の賛助会員のウェブ登録の実施

第 40 回日本磁気学会学術講演会においても賛助会員も学術講演会ホームページから事前登録を行えるようにする。賛助会員のウェブ登録の実施は、賛助会員の利便性向上だけでなく、受付業務の簡素化や学術講演会参加者の増加が期待できる。

#### 1. 2 研究会

新しく、また興味深い磁気およびその応用を主題とした研究会を、年に 5 回を目安として定期的に開催する。本年度の研究会の開催計画は次のとおりである。

	開催期日	研究会の主題（仮題）
第 208 回	平成 28 年 6 月	スピントロニクスにおける次世代材料開発
第 209 回	平成 28 年 10 月	反強磁性(3月末まで審議中)
第 210 回	平成 28 年 11 月	ナノマグ(3月末まで審議中)
第 211 回	平成 29 年 1 月	ナノバイオ(3月末まで審議中)
第 212 回	平成 29 年 2 月	高周波(3月末まで審議中)

#### 1. 3 講習会、公開講座など

- ・ 「日本磁気学会初等磁気工学講座」と「日本磁気学会サマースクール」を学術講演会に引き続いて開催する。学術講演会日程（9月5日（月）－9月8日（木））と初等磁気工学講座（9月8日（木））およびサマースクール（9月9日（金）－9月10日（土））日程とを重ねることにより、予算を削減するとともに、学生の参加増加も期待できる。
- ・ 青少年を対象に、磁気に関する啓蒙的講座を開催する。
- ・ 第4回岩崎コンファレンスを5月16日（月）－5月17日（火）に、中央大学駿河台記念館にて、『医工学とビッグデータが拓く医療の未来』を主題に開催する。

#### 1. 4 専門研究会

ナノマグネティックス専門研究会、磁気工学専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、スピンエレクトロニクス専門研究会、強磁場応用専門研究会、Energy Magnetism 専門研究会、超高感度マイクロ磁気センサ専門研究会をそれぞれ年数回開催する。

### 2. 学会誌その他の図書の刊行（定款4条2号）

#### 2. 1 学会誌および学会報の発行

平成 28 年度内に学会誌「Journal of the Magnetism society of Japan」を、Vol.40, No.3（通巻第 280 号）から Vol.41, No.2（通巻第 285 号）まで隔月で年度内 6 回電子ジャーナルとして発行、会報「まぐね」を Vol.11, No.2（通巻第 93 号）より Vol.12, No.1（通巻第 98 号）まで隔月で年度内 6 回発行する。「Journal of the Magnetism society of Japan」は英語の原著論文、レビュー論文など磁気の研究を掲載する。「まぐね」は特集記事を中心に解説、トピックス、連載講座、

磁気研究よもやま話、新製品・新技術などを掲載し、磁気分野の最新情報発信源とする。

## 2. 2 出版活動の推進

企画委員会、編集委員会が連携して総務委員会主導のもと出版WGを組織し、出版事業を推進する。平成 28 年度は、教科書シリーズ 1 巻、啓発書シリーズ 2 巻の発行を目指して原稿の収集、刊行の手続きを進める。

## 2. 3 Journal of the Magnetics Society of Japan の ISI 取得に向けた取り組み

2018 年に Journal of the Magnetics Society of Japan の ISI 申請を目指し、定常的な論文の収集に努めるとともに、レビュー論文、国際会議プロシーディングスを積極的に発行し、活性化をはかる。論文数、引用数を増やすことを目的として以下の取り組みを実施する。

- ・ Review 論文の充実

理事会、各専門研究会と連携し、多くの会員に執筆を依頼し、引用を促す。

委員会より依頼した Review 論文には投稿料を支払う。

- ・ 投稿論文の充実

専門研究会からの投稿を募る。

投稿論文 50 本を目標に理事会の協力をあおぎ論文緊急対策をおこなう。

- ・ 引用数の拡大

電子ジャーナルの OPEN ACCESS を継続する。

大きなイベントにタイミングを合わせた引用依頼を継続する。

2 年以内に発行された論文の著者と指導教員に最低 2 回の引用をおこなうよう個別に依頼する。

## 2. 4 40 周年記念事業

- ・ 学術講演会概要集の電子化

1977 年第 1 回学術講演会概要集より 2016 年第 40 回までを電子化し CD 製作を行い、学術講演会等で販売する。

- ・ 研究会資料の電子化

1977 年第 1 回研究会資料より第 189 回までを電子化および CD 製作を行い、学術講演会等で販売する。

- ・ まぐね記事の電子化

会員の利便性向上を目的として、「まぐね」の 1 巻から 10 巻までを電子化した CD を制作して学術講演会等で販売する。

## 3. 研究および調査の実施

### 3. 1 会員サービスの拡大（定款 4 条 3 号）

技術情報サービスやメールマガジンの充実、フェイスブックの活用を図る。ホームページの充実のため、技術情報サービスに連動したバナー広告掲載、英文や Q&A などのコンテンツの充実、利用状況解析によるホームページ構成の改良を行う。

### 3. 2 会員獲得のための広報活動強化

各種会合、講演会、展示会などにおける学会広報活動を強化し、ポスターや入会案内パンフレットなどによる会員入会勧誘を積極的に推進する。

#### 4. 研究の奨励および研究業績の表彰（定款4条4号）

本年度は学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞（内山賞）、学生講演賞（桜井講演賞）、技術功労賞、学会活動貢献賞、新技術・新製品賞、および出版賞の表彰を行う。

#### 5. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款4条5号）

米国電気電子学会（IEEE）の Magnetics Society、韓国磁気学会（KMS）、台湾磁気技術協会（TAMT）、ロシア磁気学会および中国、英国、ドイツ、フランス等、国内外の関連学会団体と相互協力および情報交換を行う。国際化委員会では、Asian Union of Magnetics Societies (AUMS)（日本、韓国、中国、台湾、インド）を母体に、アジアでの協調体制確立に努める。AUMS Council Meeting に参加して、AUMS に関連する議案を審議する。

## II 会議

この年度に開催する主要な会議である総会、理事会および顧問会は次により実施する。

### 1. 総会

本年度の通常総会は平成28年6月15日（金）に開催し、平成28年度事業報告および収支決算、平成29年度事業計画および収支予算などについて審議・議決する。

### 2. 理事会

本年度の理事会は、原則として6回開催し、総会および顧問会への提出議案の作成、総会での決定事項の実施、会務の整備、各事業の充実等について審議する。

### 3. 顧問会

学術講演会開催時に開催し、学会の諸活動に関して会長および理事会に意見を具申する。

### 4. その他

名誉会員および賛助会員の学会活動に対する意見を集めるため、名誉会員懇談会および賛助会員懇談会をそれぞれ年1回開催する。

## III 公益法人運営体制の確立について

日本磁気学会の継続的発展を図るために財務体質の改善および会員サービス向上を目指して、理事会主導による学会改革活動を強力に推進する。本年度の各委員会活動ポイントは下記の通り。

### 活動のポイント

総務委員会：事務効率向上および低コスト化の推進

財務委員会：財務状況の逐次把握および健全化の推進

企画委員会：賛助会員を含め会員の参加し易い研究会、学術講演会の開催

編集委員会：日本磁気学会論文特集号の電子ジャーナル化

広報委員会：電子媒体による広報活動の充実

国際化委員会：海外学協会との連携強化

## 第5号議案 平成28年(2016年)度収支予算書に関する件

単位:円				
科 目	平成27年度	平成28年度	増減 (H28-H27)	備考
I 一般正味財産増減の部				配賦比率 70:30(使用割合)
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
<b>基本財産運用益</b>	2,000	2,000	0	
<b>特定資産運用益</b>	7,000	7,000	0	
<b>受取会費</b>	20,705,000	19,210,000	△ 1,495,000	
入会金収入	65,000	100,000	35,000	
正会員会費収入	14,500,000	13,340,000	△ 1,160,000	
学生会員会費収入	890,000	870,000	△ 20,000	
賛助会員会費収入	5,250,000	4,900,000	△ 350,000	
<b>事業収入</b>	18,612,000	17,358,000	△ 1,254,000	
学術講演会収入	7,735,000	7,183,000	△ 552,000	
研究会収入	2,130,000	1,800,000	△ 330,000	
岩崎コンファレンス収入	0	890,000	890,000	平成27年度 岩崎コンファレンス開催なし
講習会収入	1,897,000	2,285,000	388,000	初等磁気・サマースクール
専門研究会収入	0	800,000	800,000	開催費用に見合った収入の見込み
英文投稿料収入	1,600,000	1,200,000	△ 400,000	投稿論文 30本見込
著作権料収入	250,000	200,000	△ 50,000	「和文著作権料収入」から費目名変更
広告料収入	5,000,000	3,000,000	△ 2,000,000	JMSJの発刊回数変更による減少
<b>雑収入</b>	453,000	3,253,000	2,800,000	
受取利息収入	3,000	3,000	0	
雑収入	450,000	3,250,000	2,800,000	40周年記念事業による収入増
<b>経常収益計</b>	<b>39,779,000</b>	<b>39,830,000</b>	<b>51,000</b>	
(2) 経常費用				
① 事業費	39,481,734	36,505,607	△ 2,976,127	
<b>雑誌発行費</b>	<b>10,340,000</b>	<b>8,056,000</b>	<b>△ 2,284,000</b>	
会報発行支出(まぐね)	6,430,000	6,310,000	△ 120,000	
JMSJ英文発行	3,000,000	1,436,000	△ 1,564,000	投稿論文30本、レビュー論文4本見込
電子ジャーナル	910,000	310,000	△ 600,000	
<b>ウェブ管理費</b>	<b>560,000</b>	<b>400,000</b>	<b>△ 160,000</b>	
ホームページ管理費	560,000	400,000	△ 160,000	事務局にてHP管理
<b>研究発表費</b>	<b>11,460,000</b>	<b>11,359,000</b>	<b>△ 101,000</b>	
学術講演会開催	5,650,000	5,750,000	100,000	
学術会合費	700,000	600,000	△ 100,000	
研究会開催	2,460,000	2,100,000	△ 360,000	1日研究会を開催、開催回数を変更して費用を圧縮
講習会開催	1,850,000	1,200,000	△ 650,000	
岩崎コンファレンス開催	0	909,000	909,000	平成27年度 岩崎コンファレンス開催なし
専門研究会開催	800,000	800,000	0	
<b>表彰・奨励費</b>	<b>300,000</b>	<b>220,000</b>	<b>△ 80,000</b>	
表彰費	300,000	220,000	△ 80,000	
<b>活性化費</b>	<b>700,000</b>	<b>450,000</b>	<b>△ 250,000</b>	
<b>会議費</b>	<b>2,300,000</b>	<b>1,935,333</b>	<b>△ 364,667</b>	
諸委員会費	2,300,000	1,935,333	△ 364,667	
<b>40周年記念事業費</b>	<b>0</b>	<b>1,800,000</b>	<b>1,800,000</b>	
<b>給与手当</b>	<b>7,350,000</b>	<b>7,560,000</b>	<b>210,000</b>	4月より正職員1名復帰
<b>福利厚生費</b>	<b>630,000</b>	<b>630,000</b>	<b>0</b>	
<b>職員通勤交通費</b>	<b>280,000</b>	<b>280,000</b>	<b>0</b>	
<b>退職給付引当費用</b>	<b>230,954</b>	<b>400,230</b>	<b>169,276</b>	
<b>什器備品減価償却</b>	<b>21,315</b>	<b>0</b>	<b>△ 21,315</b>	
<b>事務所費</b>	<b>4,234,465</b>	<b>2,305,044</b>	<b>△ 1,929,421</b>	
賃貸料	4,070,413	2,140,992	△ 1,929,421	事務所移転により費用圧縮
リース料	164,052	164,052	0	
<b>雑費</b>	<b>140,000</b>	<b>175,000</b>	<b>35,000</b>	事務所移転による一時的な費用増
<b>支払保険料</b>	<b>60,000</b>	<b>60,000</b>	<b>0</b>	
<b>その他費用</b>	<b>875,000</b>	<b>875,000</b>	<b>0</b>	

科 目	平成27年度	平成28年度(配賦後)	(配賦後)増減 (H28-H27)	備考
②管理費	7,666,886	7,238,404	△ 428,482	
給与手当	3,150,000	3,240,000	90,000	4月より正職員1名復帰
福利厚生費	270,000	270,000	0	
職員通勤交通費	120,000	120,000	0	
通信・運搬費	90,000	90,000	0	
消耗品費	60,000	60,000	0	
印刷費	15,000	15,000	0	
事務所費	1,814,771	987,876	△ 826,895	
賃貸料	1,744,463	917,568	△ 826,895	事務所移転により費用圧縮
リース料	70,308	70,308	0	
諸謝金	525,000	525,000	0	
什器備品費	30,000	30,000	0	
租税公課	75,000	75,000	0	
雑費	60,000	75,000	15,000	事務所移転による一時的な費用増
払込手数料	105,000	105,000	0	
会議費	920,000	1,150,000	230,000	
総会費	300,000	300,000	0	
理事会費	500,000	500,000	0	
諸委員会費	120,000	100,000	△ 20,000	
選挙管理委員費	0	250,000	250,000	平成28年度 役員選挙あり
ウェブ管理費	324,000	324,000	0	
会員データ管理費	324,000	324,000	0	
退職給付引当費用	98,980	171,528	72,548	
什器備品減価償却	9,135	0	△ 9,135	
経常費用計	47,148,620	43,744,011	△ 3,404,609	
当期経常増減額	△ 7,369,620	△ 3,914,011	3,455,609	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 7,369,620	△ 3,914,011	3,455,609	
一般正味財産期首残高	43,025,520	35,655,900	△ 7,369,620	
一般正味財産期末残高	35,655,900	31,741,889	△ 3,914,011	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	11,000,000	11,000,000	11,000,000	
指定正味財産期末残高	11,000,000	11,000,000	11,000,000	
III 正味財産期末残高	46,655,900	42,741,889	△ 3,914,011	

平成 28 年 4 月 13 日

監事：鈴木良夫 ㊞

監事：桐野文良 ㊞

私たち監事は平成 27 年度における当法人の財産ならびに理事の職務の執行の状況を監査いたしました。その方法および結果につき以下のとおり報告いたします。

## 1. 監査の方法およびその内容

各監事は、幹事監査規定に則り理事および職員等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備につとめるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事および職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務および財産の状況を調査した。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録）並びに収支計算書について監査した。

## 2. 監査の結果

### （1） 理事職務執行の監査結果

理事職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

### （2） 財務諸表および収支計算書の監査結果

財務諸表は、当法人の平成 28 年 3 月 31 日現在の財政状態並びに同日に終了した平成 27 年度の正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に表示しており、また収支計算書は、「公益法人会計における内部管理事項について」（平成 17 年 3 月 23 日 公益法人等の指導監督に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ）に従って、当法人の平成 28 年 3 月 31 に終了した平成 27 年度の収支の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

### （3） 監査人の意見

#### 1. 理事職務執行について

先に制定した学会将来ビジョンに沿った活動の改善の具現化を会長ならびに副会長のガバナンスを強化し、学会のあり方や運営を根本的に見直すことを要望する。理事会主導による具体的施策を設定し、改善実行が必要であり、会員に対する改善策の『見える化』の推進を要望する。特に、理事会で決定した事項のその後の進捗状況をフォローするなど議論の積み上がっていくような仕組み作りが必要である。

#### 2. 財務諸表および収支計算書

赤字予算が経年続いているが、赤字幅の圧縮を図り安定継続できる法人運営体制

の早期確立を目指して、会費収入、広告収入、寄付の募集等多面的な収入増をはかるとともに、旅費や謝金の支出の圧縮をはかる等具体的な方策を今後の事業計画ならびに予算案に盛り込むことを要望する。事務所移転による経費の削減は評価できるが、長期的な視点に立った収入増をはかっていく実施責任者を決めて推進していく必要がある。

## 第6号議案 名誉会員推薦に関する件

松木英敏 氏（東北大） 1950年11月30日生まれ

1) 前または元会長で、65歳以上の会員

安藤功兒 氏（産総研） 1951年2月11日生まれ

3) 学会賞受賞者で、65歳以上の会員

公益社団法人日本磁気学会 会員規程

（名誉会員の資格）

第5条 2項

- 1) 前または元会長で、65歳以上の会員
- 2) 前または元副会長で、70歳以上の会員
- 3) 学会賞受賞者で、65歳以上の会員
- 4) 業績賞受賞者で、70歳以上の会員
- 5) 磁気分野における業績で文化勲章または文化功労者の顕彰を授けられた会員
- 6) 磁気分野で学士院賞等を授賞し、本学会に功績顕著な者で、65歳以上の会員